

新潟薪能

平成二十八年八月二十三日 火曜日
開演 午後六時三十分 開場 午後五時十五分
於 白山神社

主催者挨拶
ご来賓挨拶
新 新潟薪能運営委員会代表 高橋道映
市 長篠田昭

舞台清被

午後六時四十分頃

仕舞

杜若

シテ 杜若ノ精 梅若万三郎

地謡

古室知也
八田達弥
伊藤嘉章
加藤真悟
梅若泰志

火入れの儀

午後七時頃

狂言

咲嘩

シテ 太郎冠者 野村万作

アド主 高野和憲
アド 咲嘩 石田幸雄

休憩十五分

午後七時四十分頃

能

清

ツレ 清経ノ妻 長谷川晴彦
シテ 清経 中村裕

経

ワキ 淡津三郎 森常好

大鼓 柿原弘和
小鼓 古賀裕己

笛 藤田朝太郎

替之型

後見

梅若泰志
梅若万佐晴
加藤真悟

地謡

中村健政
青木裕一
梅若久紀也
古室知也

遠藤嘉章
伊藤章修
青田達弥
八田章修

終了予定 午後八時四十分頃

仕舞 杜若
仕舞とはその能の一番の名場面を舞うものです。シテは杜若の花の精です。伊勢物語の恋物語を装束ではなく紋服にて舞います。

狂言 咲嘩
主人(アド)は都の伯父を連歌の宗匠に頼もうと、太郎冠者(シテ)を迎へにやります。冠者は伯父の顔も家も知らず、大声で探して歩くので、都の咲嘩(アド)という悪者が伯父になります。冠者が咲嘩を伴って帰ると、主人は人違いをわび、穏便に咲嘩を都へ帰そうとします。冠者は咲嘩との応対で失言をくり返し、見かねた主人は自分の言いつけとうり行動するように命じます。冠者は主人の物まねをすればよいと勘違いし、咲嘩を打ち叩くので座敷は混乱してしまします。冠者の取違えの失敗という愚かさを通りこした冠者のナンセンスな言動が逆に現代的です。(咲嘩とは詐欺師)

能 清経 替之型
源平の戦で西へ都落ちした清経の邸には、妻(ツレ)が寂しく留守を守っています。そこへ夫の自殺を知らせる淡津の三郎(ワキ)が来て、遺髪を届けます。あきらめきれない妻は、死者に形見を手向け返すことにしますが、泣き伏した妻のうたた寝の枕もとに、清経の霊(シテ)が現れます。

妻は戦死か病死ならともかく、自分を置き去りにして自殺するとはと恨みまくります。夫は死の動機を物語って慰めます。清経は追われる者の焦慮と無益な抗戦への懷疑から、ついに死を決心し、ある夜月を仰いで愛用の笛を吹き、念仏を唱えて舟楫から身を投げたのでした。死後霊は修羅道に落ちて苦しんでいたのですが念仏の功德で成仏することができたのでした。
夫婦のこまやかな愛情も自殺の動機も丁寧に描かれている見ごたえのある能です。

新潟薪能に親しむ集い

新潟日報メディアシップ
1F みなと広場
新潟市中央区万代3-1-1

7月23日(土)
14:00~15:30



講師 観世流能楽師 中村裕

本年度の演目の見どころを演者自身に紹介いただく能楽講座です。仕舞の披露や謡の体験、また装束・能面の展示もご覧いただけます。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

主催 新潟薪能運営委員会
お問い合わせ先
東洋はり治療センター(池田) ☎025-228-4719

●当日は会場設営のため神社の駐車場は利用できませんので、お近くの有料駐車場をご利用ください。 ●開演中の写真撮影はご遠慮ください。
●当日のお問い合わせ / tel 025-228-2963(白山神社) ●当日は満席が見込まれますので、お早めにチケットをお求めください。